

Manual ■ オルガヌム (オリジナル教材)

Step 1

A 上声部

【音が下がらないように正しく歌う】

- ・ 1小節目3拍目の音〔シ〕が下がらないようにしっかり上がる。
- ・ 3、4小節目〔ファ〕の音が、のぼしている間に下がらないようにする。

Step 2

A 下声部

【遅れないように正しく歌う】

- ・ 3小節目の旋律を歌うときに遅れないように出る。
- ・ 1、2小節目〔ファ〕の音が、のぼしている間に下がらないようにする。

Step 3

A 両声部

【お互いのパートの音を聴きながら歌う】

- ・ 上声部から下声部への旋律の受け渡しを感じながら歌う。

Step 4

B 両声部

【音の幅の変化を感じながら歌おう】

- ・ 上声部と下声部の音の幅が変化するのを感じながら歌う。

Step 5

C 上声部

【正しく歌う】

- ・ 7、8、9小節目の1拍目の音が下がらないように歌う。
- ・ 9小節目で終わってしまわずに11小節の終わりまで旋律が流れるように意識する。

Step 6

C 下声部

【正しく歌う】

- ・ 7、8、9小節目の1拍目の音が下がらないように歌う。
- ・ 11小節目〔ミ〕の音が下がらないように注意する。

Step 7

C 両声部

【お互いのパートの音を聴きながら歌う】

- ・ 上声部と下声部が同じ音の幅で動けるように聴きあって歌う。

Step 8

D 両声部

【音の幅の変化を感じながら歌おう】

- ・ Aの部分との違いに注意して歌う。

Step 9

最初から終わりまで

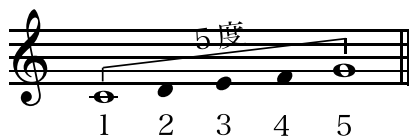
【音を合わせて歌おう】

- ・ お互いの音を聴きあって、音とタイミングを合わせて歌う。

- ★ 平行オルガヌムを十分にやってから、オリジナル教材を扱きましょう。
- ★ うまくいかないときは、A～Dにわけて練習しましょう。
- ★ オルガヌムによってつくられる音の響きをよく聴きましょう。

楽典

■ 音程 2つの音高のへだたり(距離)を音程といい、数字と度であらわします。



同じ度数でも、2つの音に含まれる半音の数によって響きは異なり、それぞれ長・短・完全・増・減と呼ばれる種類に分けられます。

完全1度			
短2度		長2度	
短3度		長3度	
完全4度		増4度	
減5度		完全5度	
短6度		長6度	
短7度		長7度	
完全8度			

音程を構成する 2 つの音が、よく調和して響くものを「協和音程」といい、濁った響きに聞こえる音程を「不協和音程」といいます。また、「協和音程」は調和の度合いによって、さらに「完全協和音程」と「不完全協和音程」に分けられます。

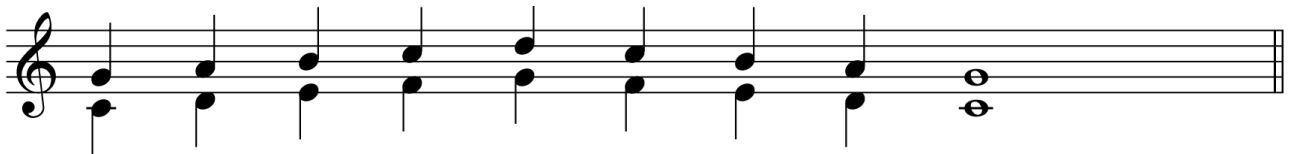
【協和音程】 … [完全協和音程] 完全 1, 4, 5, 8 度 / [不完全協和音程] 長短 3, 6 度
【不協和音程】 … 長短 2, 7 度、増 4 度、減 5 度

■ 平行と反行

平行

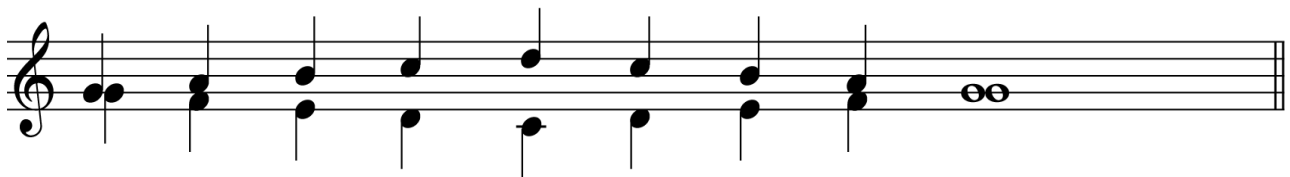
2 つの声部がたがいに同じ方向に動くことをいいます。

また、常に同じ音程間隔を保ちながら進行する場合も平行といい、以下のように常に 5 度音程で進行することを平行 5 度、あるいは連続 5 度といいます。



反行

2 つの声部がたがいに反対の方向に動くことをいいます。



音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。
- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン・・・など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。
- ピッチ： 音高（音の高さ）
- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。
- オブリガート： 助奏。とくに、ひとつの歌声と協奏する声部のことであり、独唱（奏）に加えて演奏される伴奏以外のパートを指す。もとは、楽曲に不可欠で省略できない声部のことであり、アド・リビトゥム（ad lib.）の対語である。
- 不協和音程： 2音が協和しない音程。振動数比が複雑で、同時に鳴ると濁った響きを生む。
- トーンクラスター： 2度以内の音程で密集した音の塊のこと。調的な機能を持っていない点で、和音とは区別される。20世紀後半におけるもっとも重要な技法のひとつ。
- オルガナム： 9世紀から13世紀のヨーロッパで行われた合唱の技法であり、初期の多声楽曲のこと。ひとつの旋律に対し、常に4度・5度音程をなす声部を加えて歌うもの。初期は2声の合唱であったが、発展するにつれて声部も増え、1度・4度・5度・8度の完全音程を中心に、3度・6度なども使用された。平行オルガナム、反行オルガナム、自由オルガナムなどがある。

[出典]

- ・目黒惇編(1983)『新訂合唱事典』音楽之友社
- ・浅香淳編(1991)『新訂標準音楽辞典』音楽之友社
- ・柴田南雄、遠山一行総監修(1996)『ニューグローブ世界音楽大事典』講談社
- ・金澤正剛監修(2004)『新編音楽小辞典』音楽之友社
- ・小西友七、南出康世編集主幹(2006)『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

参考文献

- ・フォライ・カタリン、セーニ・エルジェーベト共著(1975)『コダーイ・システムとは何か』
羽仁協子、谷本一之、中川弘一郎共訳 全音楽譜出版社
- ・カルドシュ・パール(1994)『合唱の育成・合唱の響き』
羽仁協子監修、菅原恵利訳 全音楽譜出版社